



ピギーちゃんの生みの親、スーザン・ビーチャム女史に聞く

実践「子どものためのマネー教育」

マネー・サビー・ジェネレーション創業者兼 CEO

スーザン・ビーチャム

I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社代表取締役

岡本 和久

当社で4月1日より販売を開始したハッピー・マネーのピギーちゃん、おかげさまでご好評をいただいています。今回はその製造元である米国マネー・サビー・ジェネレーションの創業者、兼、CEOのスーザン・ビーチャム女史にアメリカにおけるマネー教育についてSKYPEによるテレビ電話で伺いました。「おカネのことについては親が教える責任を持っています」、「親御さんは子どもの模範となるような、きちんとした行動をしてください。そして、子どもたちには『あなたたちの両親の行動をよく見て学びなさい』と言いたいですね」など、示唆にあふれるコメントをたくさんいただきました。

Susan P. Beacham, CEO (スーザン・P・ビーチャム、最高経営責任者)

マンデレイン大学にて BA、シカゴ・ロヨラ大学にて JD(大学院レベルでの法学博士)を取得。ノーザン・トラストで 9 年間、機関投資家向け信託・カストディ業務、ウェルズ・ファーゴ銀行のプライベート・バンキング部門で営業およびエグゼクティブ・マネジメント、バンク・オブ・アメリカでプライベート・バンキング部門の営業部長に従事、1999 年に夫、マイケル・ビーチャムと共に起業、現在に至る。マネー・サビー・ピッグを用いた小学生を中心とするパーソナル・ファイナンス分野のリーダーとして各種メディアなどに注目されている。

岡本 | おそらく読者の中には、あなたのことを知らない人も多いと思うので、まず自己紹介から始めてもらえますか？

ビーチャム | はい。私はスーザン・ビーチャムと申します。マネー・サビー・ジェネレーションという会社の CEO、兼、創業者です。また、二人の娘の母親です。この仕事を始める前、私はプライベートバンカーとして約 20 年間、富裕層のお客様を対象として仕事をしていました。富裕層のお客様のおカネの相談を受けていたわけです。それを続けているうちに、多くの家族が次の世代が財産をどのように管理していくか、非常に大きな悩みを抱えていることを知りました。親御さん達は子どもの世代が、彼らが積み上げた富を無駄に使う事を非常に恐れているのです。この経験を通して、私は子どもたちに対しておカネについて教え



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ることの重要性を認識し始めました。子どもたちが10代後半や20代になってから教育するのではなく、もっと、もっと、ずっと早い時期からおカネの教育をすべきだと考えるようになったのです。この分野はこれまで子どもには難しすぎるという理由でほとんど放置され続けてきました。子どもがおカネに関する悪い習慣や考え方を身につける前におカネとの付き合い方を教えたい、それはだんだん、私の夢になっていきました。

岡本| そして、いよいよ事業化をされたのですね。

ビーチャム| そうです。この夢を実現するために、最初は地域の小学校に行きボランティアで「ミセス・マネー、おカネを語る」という8週間のコースを教え始めました。子どもたちはとてもそれを喜んでくれました。彼らの反応に勇気づけられ、そしてまた、私の娘たちへの責任も感じながらマネー・サビー・キッズのためのパーソナル・ファイナンス基礎講座のカリキュラムを完成させました。今、私はマネー教育は、幼稚園、小学校1年から3年ぐらいが最適だと考えています。なぜなら、この時期は、子どもたちにとって最も素晴らしい時期だからです。そして、この年代の子どもたちは親が考えるよりもずっと理解力が高いのです。私がおカネの話を始めると彼らは一生懸命にそれを聞こうとします。なぜなら、彼らはそれを十分に理解できるからです。この時期に、おカネに対する正しい基本姿勢を教えると、それは生涯にわたって続くものになります。高校生、大学生になってから彼らの行動を変えようとしても、それは難しいものがあります。しかし、子どもたちは非常に弾力性があり、新しいものを受け入れる能力を持っています。



Susan Beacham
Founder and CEO

岡本 | そうですね。御社は幼稚園児や小学生ぐらいの子供たちを対象にしているところによりユニークな特徴がありますね。

ビーチャム | はい。その点は他社との大きな違いです。人がやっていない分野で、しかも、非常に重要な層だと思えます。

マネー・サビー・ジェネレーション社の概要

会社名	Money Savvy Generation, Inc.
所在地	910 Sherwood Drive, Suite 17, Lake Bluff, IL 60044, U.S.A.
設立年月日	1999年1月1日



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

資本金	100万ドル
株主	Michael L. Beacham, Susan P. Beacham
戦略的 ポジショニング	<p>パーソナル・ファイナンス</p> <p>収入 寄付 支出 債務 貯蓄 投資 経済 ビジネス</p>

岡本 | 残念ながら日本においては、学校におけるマネー教育が十分に行われていません。そのため、私は小学校、中学年ぐらいからマネー教育を行うことを考えています。いずれ日本でも幼稚園からのマネー教育をやりたいですね。

ビーチャム | 私が最初に考えた事は子どもたちにどのようなメッセージを伝えるかを決めることでした。おカネをどのように使うかという選択肢について学んでもらう。その結果として「貯める(Save)」、「使う(Spend)」、「譲る(Donate)」、「増やす(Invest)」という四つのおカネの使い方を考えるに至ったのです。しかし、漠然と、これらについて教えるのは非常に難しいのです。そこで具体的にそれを学ぶことができるツールとしてマネー・サビー・ピックを造り出したのです。日本ではピギーちゃんという名前ですね。

岡本 | そうそう、私が前に教えてもらったピギーちゃん誕生の秘話について読者に話してもらえませんか。

ビーチャム | そうですね。おカネについて、学校で教え始めだした初めの頃、どうしたら子どもたちにおカネの使い方について具体的に教えられるかをずっと考えていました。普通、みんな、おカネを使う事しか考えていない。どうしたら、その一部を貯めるとか、譲るとか、増やすという方に誘導できるかということを重ね。同時に子どもたちに「ニーズ」と「ウォンツ」の違いを教え、子どもたちがおカネの使い方に優先度をつける事を指導したいと考えていました。そこで、小学校 1、2





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

年生を教えていた時、4つのプラスチックのコップをテープでつなぎ合わせて、それぞれに「貯める」、「使う」、「譲る」、「増やす」というラベルを貼って貯金箱にすることを思いつきました。しばらくそれを使っていましたが、どうしてもそれには満足できなかったのです。そう思っていたある晩、私は夢を見たのです。その夢に出てきたのがピギーちゃんだったのです。非常に明確な夢でピギーちゃんの左耳は垂れていて、右耳は立っているところまではっきりと夢で見たのです。背中に4つの穴が空いていて、お腹が4つの部屋に分かれている。そして、それぞれの部屋のおカネはそれぞれの足から取り出せる。まさに今、我々が持っているピギーちゃんそのままだが夢に現れたのです。目を覚ました私は「これだ!」と確信をしたのです。このようにおカネの使い方が具体的に示されると、両親やおじいちゃん、おばあちゃんもとても喜んで子どもと非常に自然におカネの話をするようになりました。子どもにお小遣いをあげるときに、その子どもが4つの使い方のどこにおカネを入れるかを興味深く見ることができます。今、ピギーちゃんは世界中の子ども達のもとに行っておカネのことを教えています。全世界で、これまでに120万個のピギーちゃんが販売されているのですよ。日本でも岡本さんの協力で販売が可能になったことをとても嬉しく思います。日本ではハッピー・マネー・ピッグというのですね。それはとてもいい名前だと思います。

岡本 | 全世界で120万個というのはすごいですね。英語のサビーというのは、「実務に役立つ知識」というような意味だと思いますが、残念ながら日本ではそれほど知られていない言葉です。そこで子どもでもわかる「ハッピー・マネー・ピッグのピギーちゃん」と名付けました。ピギーちゃんにはブルーのほか、ピンクやグリーンもありますね。それから、まだ日本では発売していませんが牛やフットボールの形のも外国では売られていますね。

ビーチャム | はい。イスラム圏では豚の貯金箱は不適切です。そこで牛のマネー・サビー・カウを作ったのです。また、アメリカン・フットボールが好きな子も多いのでマネー・サビー・フットボールも作りました。また、たくさんの賞をいただきました。



マネー・サビー・
カウ貯金箱



マネー・サビー・フット
ボール貯金箱

岡本 | アメリカの貯金箱が豚の形をしているのには面白い話があるようです。1700年ごろ、アメリカでは、オレンジ色のピッグという名前の土の壺におカネをしまっておく風習があった。それで、発音が同じということで貯金箱がピッグの形になったと聞いています。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ビーチャム | そうです。そのようなわけで昔からアメリカでは貯金箱は豚の形をしていました。ですから豚とおカネと言う関係は一般になじみ深いものでした。しかし、それはおカネを貯めるだけの目的でした。ピギーちゃんはおカネの使い方を教えてください。そこが決定的な違いですね。手元にあるおカネの一部を使う、また一部を少し先の為に貯めておく。おカネを貯めておくことにより、より大きな買い物ができ、大きな喜びを得ることができる。こうして子どもは今、少し我慢をすると少し先に大きな喜びを得られるという事を学んでいくことができます。

岡本 | 「我慢のご褒美として大きな喜びを得られる」というのは、どうしても今の自分の喜びばかりを求めてしまう子どもたちにとって非常に重要なメッセージだと思います。そしてこの概念は金利などの概念にも関連してくるといえますよね。これは「時間の価値」を知ることにもなります。

ビーチャム | そうです。また、自分のためだけではなくて、おカネの一部を人のために使う。つまり、「譲る」、寄付をするということですね。そしてずっと未来の自分のためにおカネを投資で増やしていくことも大切です。

岡本 | おカネを増やすためには、そのおカネをビジネスで活用してもらい、良い社会を作ってもらおう。そして皆に感謝をされ、そのビジネスにおカネが貯まる。そして、そのおカネの一部が投資のリターンとして戻ってくる。こうしておカネが増えていく。これが投資の原点です。株価を追いかけて売ったり買ったりしてサヤをとるとするのは、株式投資の本質とは少しかけ離れたところにあるように思います。でも、残念ながら今日そちらの方が投資の主流になってしまっている。子どもたちに投資の本質を教えると言うことの重要性はここにあると思います。

ビーチャム | そうですね。ハッピー・マネー・ピッグはおカネの使い方を具体的な形で子どもに目に見えるようにしたものです。私はこれから子どもたち、親御さんたち、学校の先生、おじいちゃんやおばあちゃん、コミュニティの人々に普及するような活動を続けていきたいと思っています。

岡本 | Facebook の投稿に「ハッピー・マネー・ピッグは子どもの時に受ける予防接種のようなものだ」とある方が書いてくださいました。それはとても良い表現だと思います。予防接種を受けておくと免疫力が生涯続くようなものです。残念ながら日本ではおカネに対するイメージがあまり良いものだとは言えません。私も中学校や高等学校を中心に出張授業を行っていますが、講義のはじめにいつも挙手でアンケートを取ります。おカネのイメージはきれいか、汚いかと聞くと、6~7割の子が汚いと答えます。おカネ持ちのイメージについて聞くと、8割



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ぐらいの子どもが悪い人と答えます。私はこのような子どもたちの誤解を解いてやり、おカネに対して正しい考え方を教えるという事は日本にとっても非常に重要なことだと思っています。アメリカの子どもたちもやはり同じようにおカネに対してはマイナスのイメージを持っているものなのではないでしょうか。

ビーチャム | とても興味深いのは、低所得者の多い地域の子どもたちは、税金を払うことが悪いことだと考えていることが多いのです。自分たちがおカネを稼ぎ、税金を払うという事は良くないことだと思っているのです。税金を払うほど収入を得たという誇りを感じるよりも、それが悪いことであると考えてしまっている。良い方向にしろ、悪い方向にしろ、子どもたちはおカネに対する概念について大変、混乱をしていると言えると思います。そのような混乱は多くの人が読む新聞や雑誌などでウォール街の金融関係者が関係した不祥事をたくさん目にしているからだと思います。金融業界のトップなどが不誠実な態度をとっているのを見て子どもたちは心の中で混乱を起こしています。そして、仕事で収入を得て、金持ちになるとすると、彼らはきっと悪いことをしているに違いないと思ってしまうのです。そこで私は、子どもたちに対して「おカネというものは、我々に力を与えてくれるものだ」ということを強調しています。おカネによって、われわれは生活ができるということだけでなく、人を助けることもできるのです。家庭を持てばその家庭が生存してゆくためにはおカネが必要です。同時に、コミュニティも存続していかねばなりません。おカネは良い稼ぎ方もできるし、悪い稼ぎ方もできます。また、良い使い方も出来るし、悪い使い方もできるものなのです。おカネとどのように付き合うのかという事を知ることが、いかに大切か、このことからわかります。子どもが一番知らなければいけないのは、おカネというものはいくらでも良いことに使えるパワーを持ったものだということです。

岡本 | 子どもたちにマネー教育を始めた頃、何か大きな難しさはありましたか。

ビーチャム | 子どもに対してはあまり大きな問題はありませんでした。問題は親だったのです。多くの親が子どもたちにおカネのことなどをして欲しくないと思っていました。マネー教育を行うことによって、子どもに他の勉強の面での負担が増えることを恐れていた人も多かったのです。そのような親達が理解していなかったのは、マネー教育が実は子どもたちを守るためにあるという点でした。子どもたちを現実から隔離しようとしていたのです。その結果、子どもたちは親に頼るようになります。今、アメリカで起こっている大きな問題はベビーブーマーが退職をし、収入を失うために家族を支えられなくなってきたということです。世界はリセッションを体験しました。そして、50代後半から60代に入ったベビーブーマーたちが突如として職を失い、同時に年取った自分たちの両親の面倒を見る必要が出てきています。また、多くの家庭で子どもたちがまだ家にいて、その面倒を見なければならないのです。いまだに子どもの教育費におカネがかかる家庭も非常に多いのです。ですから、すべての人たちが自分のおカネの支配人となる必要があるのです。おカネの知識はすべての人にとっ



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

て決定的に必要なスキルだと言ってもいいでしょう。

岡本| 特に日本では過去 20 年以上にわたって経済が停滞をしてきました。今、中学生や高校生の子どもの持つ親はハイティーン頃にバブルの狂乱を見て育ち、その後、社会に出てからずっと苦しい現実の中で仕事をしてきています。そのためにどうしてもおカネに対するイメージがあまりポジティブではなくなっているのではないかと思います。しかし、今、定年退職をしているベビーブーマーたちは 40 余年の社会人生活のうち、前半の半分は経済が拡大をしている時期でした。ですから、日本が元気だった時の事を、孫の世代に対してもきちんと伝えていくことが、我々の世代のひとつの責任ではないかと感じています。

ビーチャム| 特に日本では少子高齢化が急速に進んでいると聞きますから余計にそれは大切ですよ。

岡本| はい。ピギーちゃんを手にしたご両親からいろいろなコメントをいただきました。おそらく子どもたちの反応は世界中どこも驚くほど似ているのではないのでしょうか。あるお父さんはピギーちゃんを 1 つ注文しました。子どもは 2 人いたのですが下のお子さんにはまだ難しいと思ったのです。でも、箱から出してみると 2 人の子どもの間で喧嘩が始まりました。お父さんはさらにもう一つ追加注文をしたそうです(笑)。とても興味深いのは、普段、家でおカネの話などしたことのない家族がピギーちゃんが来た途端に家族でおカネの話が始まるということです。これは非常に大きなメリットだと思います。

ビーチャム | アメリカでも同じです。多くの親が子どもにおカネのことを話したいと思っても、なかなか良いきっかけがないのです。でもピギーちゃんが届くと、本当に自然におカネについての会話が家族の間で始まります。

岡本 | 4 つのおカネの使い道のうち、教えるのはなかなか難しいのが投資ではないかと思えます。その点についてはアメリカでは、どのような教え方をしているのですか。

ビーチャム | それはとても興味深いテーマですね。最初はとても大変でした。しかし、ある時、思いついて子どもたちをマクドナルドの株主総会に連れて行ったのです。もちろん子どもたちはマクドナルドのことをよく知っています。そこで彼らに「あなたたちがマクドナルドの株式を買って株主になるとマクドナ





長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ルドという会社の一部を持つことになるのよ。だからマクドナルドが儲かるとあなたたちのおカネも増える、でも、損をするとあなたたちも損をするかも知れない」という事を教えたのです。さらにもう一つのハンバーガーチェーンであるバーガーキングとマクドナルドを比較させたりしました。こうして、子どもたちをマクドナルドの株主総会に連れて行ったのです。

岡本 | 子どもたちはマクドナルドの株主ではないですよ。それでも株主総会に出席できたのですか？

ビーチャム | 会社と交渉をしました。子どもにとって、それは非常に貴重な体験になることなどを広報担当者に説明をしました。幸い、CEO が非常に好意的でした。そして、マクドナルドは非常にうまく子どもたちに自分たちの事業を説明してくれました。コマーシャルのビデオや何かを使ってですね。さらに、現在、検討している新製品の紹介などもあり、子どもたちはごく自然に株主になるということを理解していきました。子どもたちはハッピー・ミール・トイという食べ物に入ったお土産をもらったのですが、その中にソンブレロをかぶったスヌーピーのフィギュアがありました。なぜスヌーピーがメキシコのソンブレロをかぶっているのか。こうして子どもたちはマクドナルドのグローバルな展開についても知るようになっていきました。子どもたちの理解する能力を過小評価してはいけません。そして今、勉強しているおカネの事は今から10年後に本当に役立つことなのです。大切なことは、子どもたちに今から10年後の自分を想像してもらうことです。「貯める」というのは今から1年後の目標のためです。「増やす」は今から10年後の目的のためのものです。投資のことを学ぶことで子どもたちはおカネと時間というものの関係を理解するようになるのです。子どもたちに1年後に欲しい物、10年後に欲しい物を描かせてみるととても面白いですよ。同時に絵を描くことによって子どもたちのイメージもはっきりとしてきます。その絵を家に持って帰り、両親やおじいちゃん、おばあちゃんに見せる子どももたくさんいます。そしてここでもまた会話が始まるのです。

岡本 | つまり「貯める」という事は、1年ぐらい先の目標のため、「増やす」というのは10年というようなくずと将来の目的を達成するものだけということですね。投資を学ぶということは「毎日の生活の仕方」を学ぶことだし、さらに「生き方」を考えることでもある。

ビーチャム | その時に大切なのは、例えば10年後にその子がどのような状態にあるかを想像させてみることです。例えば「その頃には高校に入っているな」というようなイメージをしっかりと持たせるのです。

岡本 | 我々の歳になると10年ぐらいはすぐにたっってしまうんですが(笑)、子どもにとって10年というのは想像できないほど遠い未来の事ですからね。少しでも具体的なイメージが持てるように手助けをしてあげることが大切なんでしょうね。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ビーチャム | 10年といわないでも彼らにとっては1年ですら遠い先のことです。今の喜びを少し先送りすると、その喜びがもっと大きくなる、と言う事を理解し始めるとおカネと時間と言うものの関係を子どもたちが実感することになります。

岡本 | ピギーちゃんを買ったお母さんからもいろいろなコメントをいただきました。例えば、以前オーストリアに行ったことのある子どもがどうしてももう一度行ってみたい。そこで「貯める」のところにユーロのマークを白紙のステッカーに書いて貼ったそうです。また、「増やす」のところには株と書いたそうです。話を聞いてみると、お父さんの会社の株と答えたそうです。小学生でも本当に色々なことが理解できるものだと驚くほどです。別のお母さんからのコメントでは4つのおカネの使い道について説明をしたのだけれどお母さんは「貯める」と、「増やす」の違いをどう説明して良いのかちょっと迷ってしまった。色々と話しているうちに、子どもが「あ、わかった。僕が子どものうちに欲しい野球のグローブを買うのは貯めるおカネだね。今、何を欲しいかわからないけれど、ずっと大人になってから欲しいもののため増やしておくのが投資だね」と答えたと言うのです。お母さんもびっくりしていました。

ビーチャム | 本当に子どもの理解力と子どもたちがいかに多くの事を大人の会話から学んでいるか、ということには驚かされるばかりです。

岡本 | 本当にその通りですね。

ビーチャム | 子どもは全然興味を示していないような事でもちゃんと見ていて、ちゃんと聞いているのです。素晴らしいですね。

岡本 | 子どもの理解力は素晴らしい。ただ、残念ながら適切なメッセージが子どもに与えられていない。その意味でこのピギーちゃんが家庭の中におカネの会話をもたらししてくれれば、とても素晴らしいことだと思います。

ビーチャム | 特に小学校低学年の子どもたちが自分たちの学んだ事を自分の言葉で表現しようとするのは素晴らしい事です。年齢が上になるほど、人の話を素直に聞けなかったり、自分で考えたことでない事を話すようになってしまったりしてしまいます。小学生でも、先程の野球のグローブの話でもわかるように、短期と長期ということをしっかり理解するようになっていきます。

岡本 | あなたがホームページのビデオで話していた事だと思うのですが、多くの子どもが最初はお小遣いをピギーちゃんの4つの部屋に同じように配分をすると聞きました。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

ビーチャム | そうです。しかし、だんだん 4 つの部屋の意味の違いが分かるようになると、それぞれに差をつけるようになります。「使う」と「貯める」は比較的わかりやすいのだと思います。「譲る」については、小さい子どもは寄付をするほどのおカネを持っていません。しかし大切な事はおカネを寄付するだけではなく、時間を寄付することもできるということです。「タイム・イズ・マネー」と言いますからね。例えばピアノが上手な子であれば、コミュニティの高齢者の方々の集まりでピアノを聴かせてあげるといったこともできます。これもある意味、タレント(才能)と時間を寄付していると言ってもいいと思います。このような形での人助けが積み重なっていくとおカネを使つての寄付もごく自然にできるようになると思います。

岡本 | 私は日本で昔から言われている「一日一善」ということを子どもたちに話しています。一日のうち、たった一つでいいから人の喜ぶことをしてあげなさい。お年寄りがいたら、電車の席を譲ってあげなさい。目の不自由な人が交差点渡ろうとしていたら手をとって助けてあげなさい。一日のうち一回はお父さんやお母さんに心から「ありがとう」と言って感謝をしなさい。そういう小さな良い事が貯まっていくと、それは大きな寄付につながっていくだろうと思います。そして子どもたちはそのようなことに非常に素直に反応してくれます。

ビーチャム | 「感謝」は「寛容さ」の入り口だと言いますからね。いろいろなことに感謝をすると人に対しても優しくなることができます。一日一善 (One little good thing a day) というのはとても素晴らしいと思います。そのようなことによって子どもたちの心が優しくなっていくことだろうと思います。

岡本 | 先程の話の続きになりますが、我々のまわりはマスコミなどによって伝えられるとかおカネに関するスキャンダルでいっぱいです。アメリカでも、ウォール街の一部の人々の強欲さが多くの問題を発生しています。このようなことから、どうしても子どもたちも、そして大人も、おカネに対して悪いイメージを持ってしまいます。アメリカでもそのような点は問題になっているのでしょうか。

ビーチャム | 子どもたちがそのようなマイナスのニュースを見聞きして、いちばん心配に思うのは、自分が預けている銀行のおカネがちゃんと戻ってくるかどうかという点です。確かに金利はもらえるかもしれないけれど、おカネが戻ってこないのでは仕方がない。子どもたちはその点を結構、心配しています。まあ、子どもだけではなくて、大人も心配をしているかもしれませんけれどね。先程もお話したように、子ども達は自分たちの周りのメッセージをしっかりと見聞きしています。ですから、マスコミが過剰に不安を煽り立てるような報道をしたり、おカネに関する悪いニュースばかりを伝えることについては、私自身、フラストレーションを感じています。実際には預金には保険などもあって、それほど心配することはありません。しかし、大人たちも金融知識が十分だとは言えず、それが子どもにも波及してしまっています。その結果、預金をすることすら良いのかどうか疑問を持ってしまいます。本当は大人がそ



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

のような偏見を子どもが持たないように注意することがとても大切です。一部に問題があることは事実ですが、それはごく一部で一般論ではありません。投資をする前に、その会社が良い会社かどうかを十分に調べなさい。その会社を十分に理解しなさい。銀行制度と銀行預金に対する保護がどのように行われているかを十分に理解しなさい。残念なことに、多くの人がそのような基本的な金融の知識を持っておらず、安易にローンに頼ったりしています。まず大人が金融の事についてしっかり学び、そしてそれを子どもに伝えてほしいのです。子どもをそのような知識から隔離してしまってはいけません。子どもにとって最も大切な先生は両親なのです。特におカネのことについては親が教える責任を持っています。

岡本 | 家庭におけるマネー教育に関連しますが、アメリカでは一般的にどのようなお小遣いの与え方をしているのでしょうか。

ビーチャム | お小遣いの与え方は親にとって、

とても難しいものがあります。多くの家庭でお小遣いが家庭の中のお手伝いをした時に与えるものとされています。食器を洗ったり、部屋をきれいにしたりすることで一定額のお小遣いを貰うのです。あるいは、ある家庭では年齢一歳につきお小遣いを 1 ドルと決めています。八歳であれば 8 ドルというようにですね。しかし私はこれらのお小遣いのあげ方には反対です。お小遣いというのは本来、子どもにかかる経費です。子どもから見れば、自分が成長していくために経費がかかる。お小遣いをあげるというのは、その経費の一部を子どもに自分の判断で使わせるという事だと思います。ただ単に「可愛いから」というような理由でお小遣いをあげるべきではないでしょう。子どもが成長するに



たがって、自分にかかる経費を自分の裁量で使う比率が高まっていくということです。例えば、アメリカではお昼ご飯は学校で買うことが多いのです。子どもにはこのおカネを使って、あなたはお昼を食べなさいと伝えます。しかし、それをどのように使うかという事は、子どもが判断すべきことです。子どもは学校でランチを買う代わりに家で自分でサンドイッチを作って持っていかかもしれません。そしてその余ったおカネを別のことに使うこともあるでしょう。こうして子どもは自分が成長するために必要な資金の一部を管理することができるように



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

なる。大きくなるに従ってその比重を高めていくことになります。

岡本 | もう一つ子どもに関連する大きな出費は大学の教育費です。その件についてはどのように考えているのですか。

ビーチャム | 私の娘のケースについてお話をします。もちろんそれが唯一の方法だとは思いませんが、参考にはなると思います。私と夫は、娘に「あなたには大学に行く費用として4年間にわたり年4万ドルを出してあげることができる」と伝えました。年間4万ドルあれば最低限の部屋代と食事代、学費は出せるはずで、それ以上の経費は自分の責任でまかないなさいと伝えたのです。そして、その内容について娘と合意し、契約書を作成し、お互いにサインをしました。抽象的な約束ではなく、明確な文章の形で合意を確認するのです。同時に私たちが出すおカネをどのように使ってもらいたいのかという期待を明確にしておいたのです。

岡本 | アメリカでは学生が学費が足りないために学生ローンを大量に借りてしまい、それが大きな問題になっていると聞いていますが。結局、仕送りでは足りないで安易にローンに走るようなケースはないのですか？

ビーチャム | 学生ローンを借りるのも選択肢だろうとは思いますが、そのような安易な道ではなく、一生懸命に学業に励み、良い成績をとれば奨学金だって取れるのです。下の娘は18歳になります。彼女は年間4万ドルではなく、6万ドルもする高い大学に行くことを希望していました。しかし、彼女の本当にやりたいこと、強みを生かせることがその大学で得られるかどうか、私たちは少し疑問でした。娘は学生ローンを取ってでも行く事を考えましたが、まだ18歳でもあるということで、私たちはそれを許しませんでした。大学を卒業してすぐにローンの返済に追われるよりも、もっと適切な大学で彼女の本当の能力を伸ばせる勉強に注力して、卒業してすぐに仕事をして収入を得て自立してほしいと願ったからです。

岡本 | それは非常に参考になります。ある意味、毅然とした親の判断に子どもを従わせるということが必要だということでしょう。自立をさせると同時に親が必要なきには言うこと聞かせるということが必要です。日本の親と子どもたちにメッセージをもらえませんか。

ビーチャム | 親御さんに対しては、「おカネをどのように管理をするか教える事を恐れてはいけない」ということです。子どもたちは親が思う以上に高い理解力を持っています。おカネの4つの使い方を通して、子どもたちのパートナーとなり、子どもたちの夢をかなえることができるようにしてあげてほしいものです。そして、それを何度も、何度も繰り返し、続けていくことです。そして、子どもに対してはご両親がおカネという素晴らしい世界に自分たちを招き入れてくれることをとても幸運に思っています。「あなたたちの両親は、あなたのことを非



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

常に高く評価をしているから、おカネについての話もしてくれる」ということを理解してほしいです。親御さんは子どもの模範となるような、きちんとした行動をしてください。そして、子どもたちには「あなたたちの両親の行動をよく見て学びなさい」と言いたいですね。

岡本 | 今日は長時間にわたり本当にありがとうございました。

子どもの時にほんの少しの時間でも基礎的なマネー教育をしておく、その子は人生を通じておカネの管理が上手にできるようになるものです。しかし、マネー教育は目的に至るための手段です。目的とするところは自立した成功に満ちた人生です。

マネー・サビー・ジェネレーション
創業者 兼 CEO、スーザン・ビーチャム